

こども・若者参画及び意見反映専門委員会

一般社団法人 Masterpiece（マスターピース）菊池真梨香

2023/7/10 資料

●自己紹介

- ・保育士・社会福祉士・精神保健福祉士
- ・2010年～東京都内児童養護施設で住み込み児童指導員
- ・2017年～一般社団法人 Masterpiece（虐待などの理由で親を頼りづらい若者サポート）
- ・2018年～非常勤児童相談所職員（2自治体）
- ・2018年～社会的養護等経験者全国交流会運営委員
- ・2022年 内閣府こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究検討委員
- ・2023年 本委員会・こどもの居場所部会委員

●こども家庭庁の目的

- ・少子化対策が目的になってはいけない。「権利」であるから意見を反映する。
- ・声をしっかり取り扱わないとどうになってしまうのか。
千葉県野田市の事件、栗原心愛さんのことを胸に。

●困難を抱えるこども若者の意見反映

- ・まずは「知ること」から。困難な状況の脱出から。傷の癒しから。
- ・そもそも声をあげることで生活や命を脅かされてきたこどもたち。大人への不信感。
→基本的信頼感の構築、メンタルケアの基盤が必要。
- ・声をあげるためには「安定的な生活基盤」「経済的余裕」「時間的余裕」が必要。
- ・住む所がない、職がない、スマホがない若者も。

●声を聴くために

- ・ファシリテーターの養成。その場面にあった様々な分野のファシリテーター。
学校、障害、外国籍、生活困窮者、社会的養護等…
- ・困難を抱えるこども若者のためには、専門職のケア体制、ピアサポート、ネットワークの中で見守られ相談できる体制が整っていくことが重要。